

# WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート (2026年5月)

## ■ 5月のパフォーマンス

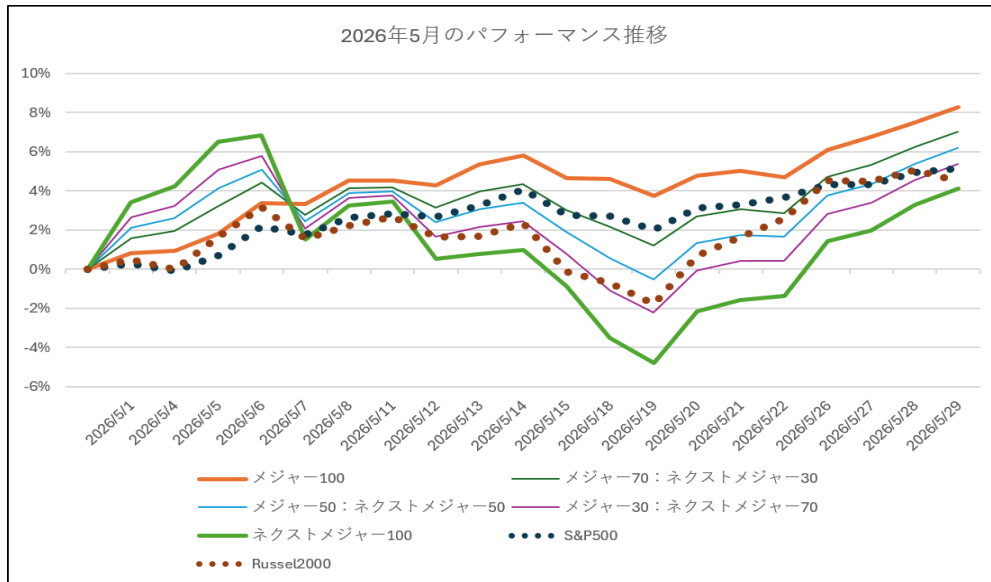
### ➤ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	+8.27%
ネクストメジャー100	+4.12%

### ➤ 各指標の月間騰落率

S&P 500	+5.15%
Russell2000	+4.27%
NY ダウ	+2.78%
NASDAQ	+8.36%

### ➤ 運用コース毎の当月パフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク (%)	超過収益
1位	メジャー100	8.27%	S&P500	5.15%	3.12%
2位	メジャー70:ネクストメジャー30	7.02%	S&P500 (70%) Russel2000 (30%)	4.88%	2.14%
3位	メジャー50:ネクストメジャー50	6.19%	S&P500 (50%) Russel2000 (50%)	4.71%	1.49%
4位	メジャー30:ネクストメジャー70	5.36%	S&P500 (30%) Russel2000 (70%)	4.53%	0.83%
5位	ネクストメジャー100	4.12%	Russel2000	4.27%	-0.15%
	全戦略平均	6.19%			1.49%

※各指標のベンチマークについて

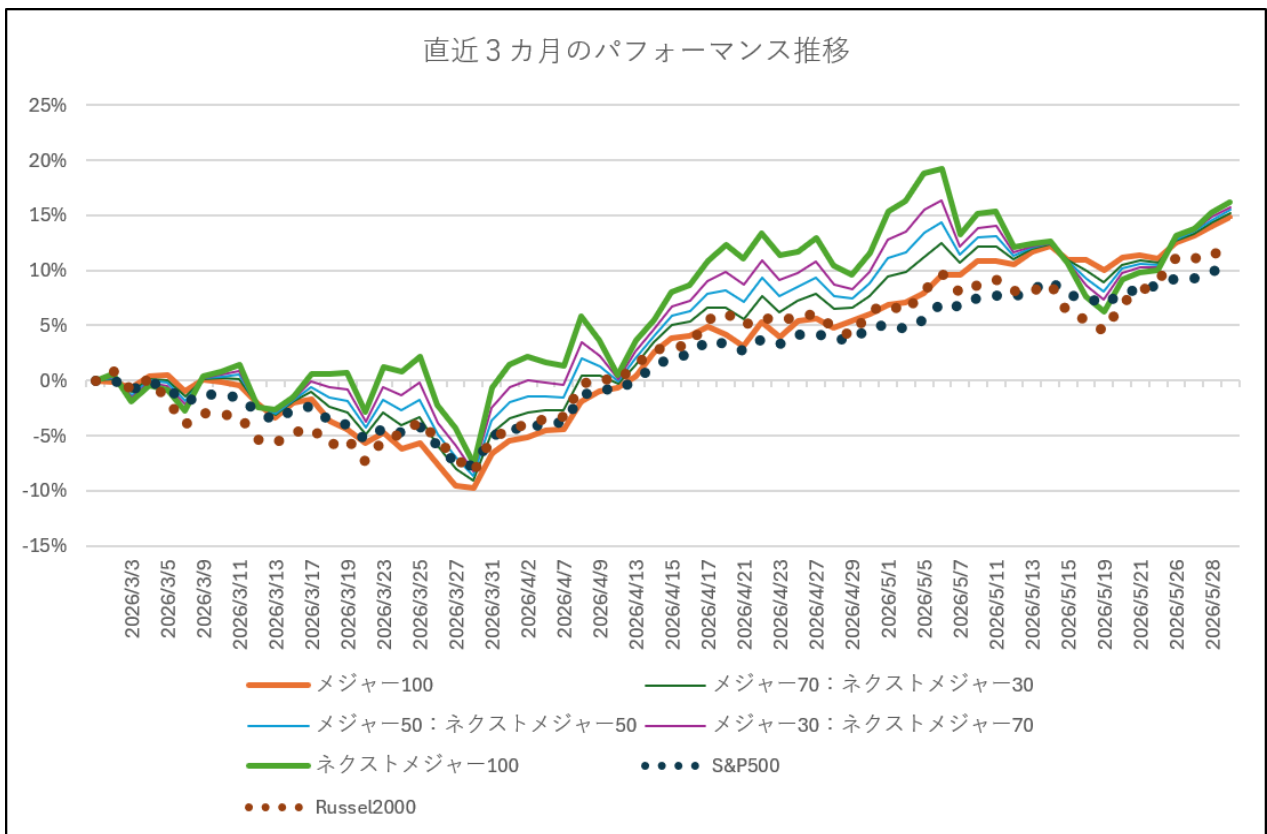
メジャー100のベンチマークはS&P500、ネクストメジャー100のベンチマークはRussel2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

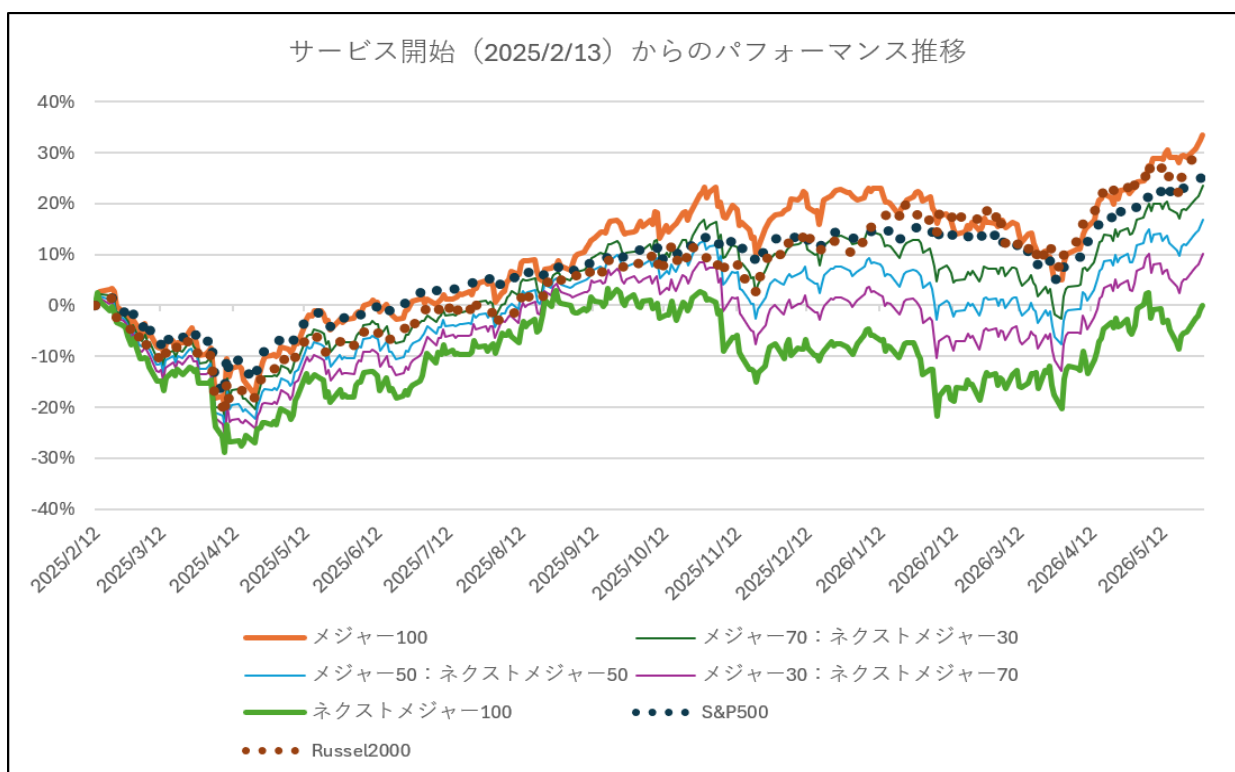
**WEALTH GROWTH（ウェルスグロス）で最も月間成績が良かった戦略は、「メジャー100」でした。月間で+8.27%、対ベンチマーク超過収益では+3.12%となり、ベンチマークをアウトパフォームする結果となりました。**

➤ 直近3カ月のパフォーマンス推移グラフ



➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

WealthGrowth（ウェルスグロス）の2025年2月13日（サービス開始）から2026年5月末までの運用実績です。



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

➤ 設定来の騰落率

WEALTH GROWTH（ウェルスグロス）の2025年2月13日（サービス開始）から2026年5月末までの運用実績です。

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来	シャープレシオ	ソルティノレシオ
メジャー100	8.27%	2.36%	13.37%	37.24%	33.53%	1.35	2.80
ネクストメジャー100	4.12%	11.18%	8.22%	21.86%	0.003%	0.62	1.00
S&P500	5.15%	3.89%	10.67%	28.22%	25.25%	1.50	3.04
Russel2000	4.27%	7.06%	16.76%	41.38%	29.65%	1.01	1.88

※騰落率は、サービスローンチの2025年2月13日からのデータを対象に算出しています。

※シャープレシオ及びソルティノレシオは、実運用開始の2024年6月4日からのデータを対象に年率換算し算出しています。

## ■ 5月の市況概況

### ➤ 米国市場

5月の米国市場は、インフレ高止まりの懸念が残るなか、AI（人工知能）関連の旺盛な設備投資がもたらす強力な業績相場となりました。中東情勢（米国とイランの和平交渉）の動向に市場が一喜一憂する中、マクロ経済の不透明感をハイテク・半導体企業の力強い利益成長が打ち消し、主要株価指数は最高値更新を続ける熱を帯びた雰囲気となりました。

・**第1週（5月1日～5月8日）** / ダウ平均 : **▲0.09%**、S&P 500 : **+2.63%**、NASDAQ : **+5.44%**

#### **AI半導体株の牽引と雇用統計の底堅さで主要指数が最高値更新**

4月の米国雇用統計は非農業部門雇用者数が11.5万人増と市場予想を上回り、労働市場の底堅さが確認されました。また、AMDなど半導体企業の強気な見通しを背景にAIエコシステムへの成長期待が再燃し、NVIDIAをはじめとするハイテク株が相場を力強く牽引しました。中東の戦闘終結交渉への期待も下支えとなり、ダウ、ナスダック、S&P500の主要3指数が揃って最高値を更新しました。

・**第2週（5月11日～5月15日）** / ダウ平均 : **▲0.17%**、S&P500 : **+0.13%**、NASDAQ : **▲0.08%**

#### **インフレ指標の上振れで金利上昇も、ダウは5万ドル台を回復**

4月のCPI（消費者物価指数）が前年比3.8%上昇、PPI（生産者物価指数）も同6%上昇とインフレ再燃を示し、長期金利は上昇基調を強めました。金利高を嫌気してハイテク株などが売られる場面もありましたが、米中首脳会談の無事通過やAI関連事業の好調、低価格路線で健闘した小売企業の決算が好感されました。ダウ平均は再び5万ドルの大台を回復し、底堅い展開となりました。

・**第3週（5月18日～5月22日）** / ダウ平均 : **+2.13%**、S&P 500 : **+0.88%**、NASDAQ : **+0.45%**

#### **NVIDIAの驚異的決算とイラン和平交渉の期待で上昇**

中東情勢を巡る米国とイランの和平交渉進展への期待から原油価格が下落し、インフレ懸念がやや後退しました。最大の焦点であったNVIDIAの2-4月期決算は売上高が85%増、純利益が3倍となり、巨額の自社株買いも発表されるなど市場の期待を凌駕しました。FOMC議事要旨ではインフレ高止まりへの強い警戒感と引き締め示唆が見られたものの、AI需要の強さが相場を力強く押し上げました。

・**第4週（5月25日～5月29日）** / ダウ平均 : **+0.90%**、S&P500 : **+1.43%**、NASDAQ : **+2.39%**

#### **イラン停戦延長の暫定合意報道とAIインフラ投資の広がり**

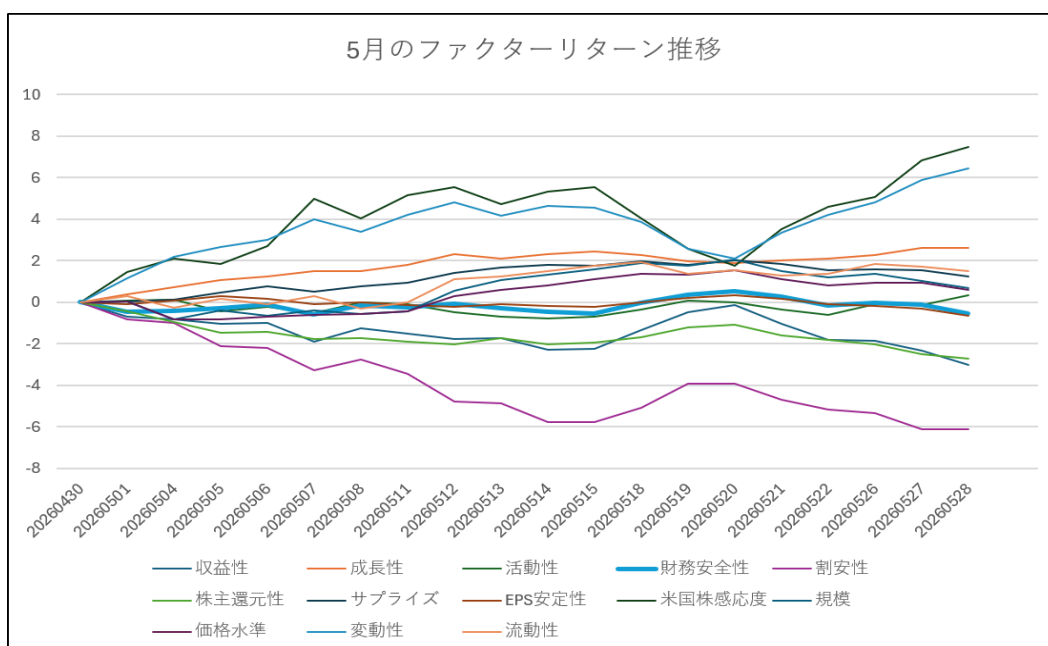
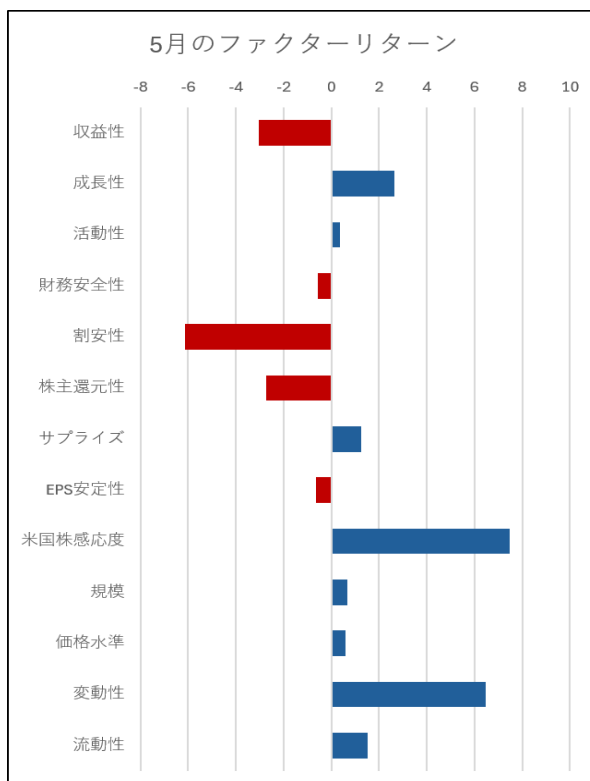
米国とイランが60日間の停戦延長などを盛り込んだ覚書に暫定合意したとの報道が伝わり、投資家のリスクオフ姿勢が後退しました。4月のPCE物価指数は前年比3.8%上昇と高止まりを示したものの、スノーフレイクの強気な見通しなどAI関連投資がソフトウェアや半導体へと広がりを見せ、主要3指数は揃って最高値を更新しました。新FRB議長に就任したウォルシュ氏の金融政策運営にも関心が集まっています。

## ■ 月間パフォーマンスの背景

### ➤ ファクター動向

5月も、ハイリスクのグロース株が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、米国株感応度ファクター・変動性ファクター・成長性ファクターが大きくプラスとなる一方、割安性ファクター・株主還元性ファクターがマイナスとなり、中東情勢（米国とイランの和平交渉）の動向に市場が一喜一憂するも、4月と同様、AI・半導体関連銘柄に買いが集中するなか、ハイリスクのグロース株へ資金が向かったことが見て取れます。

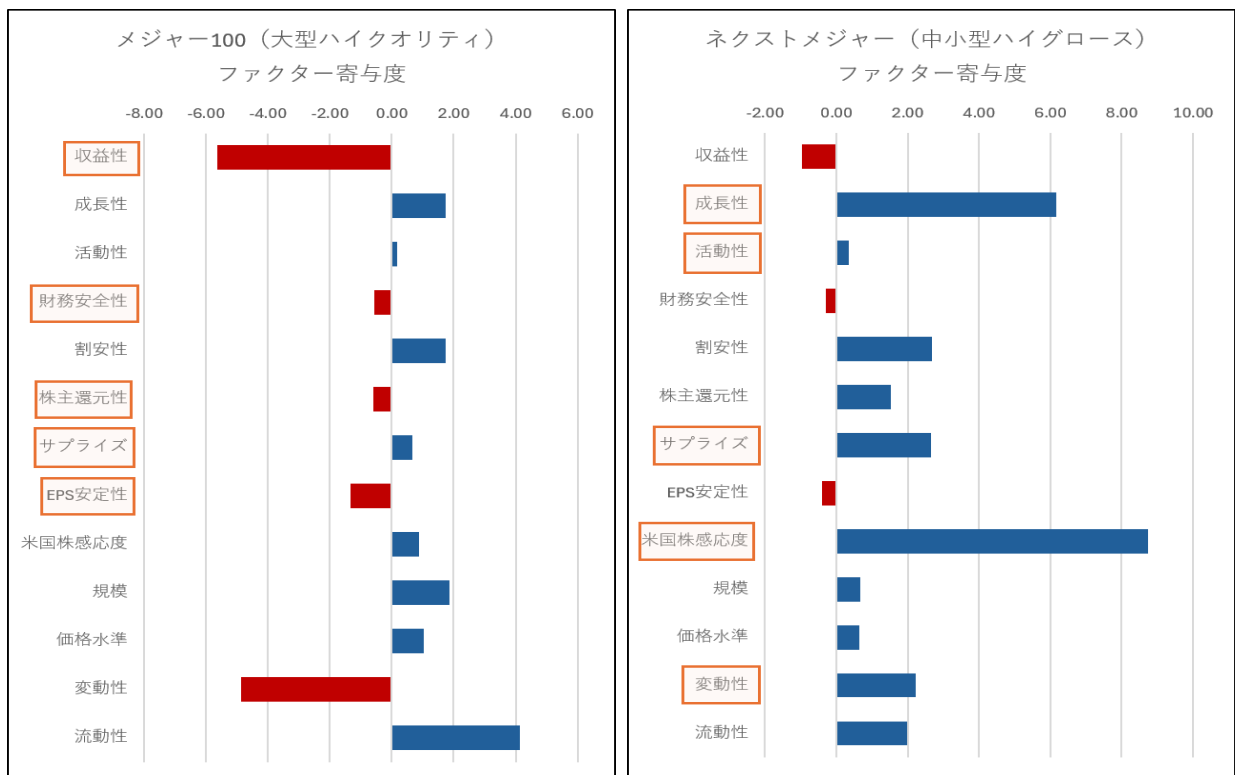


➤ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、

**メジャー100 (大型ハイクオリティ)** がS & P500をアウトパフォームした要因は、メジャー100の特徴である「好業績 (=ポジティブ・サプライズ)、高成長」といったポートフォリオ特性がプラスに寄与、さらに、高米国株感応度 (=ハイベータ) 特性もプラスに寄与したためです。

**ネクストメジャー100 (中小型ハイグロース)** がRussel2000をアンダーパフォームした要因は、ネクストメジャー100の特徴である「高成長、好業績 (=ポジティブ・サプライズ)」特性がプラスに寄与、さらに、「高米国株感応度 (=ハイベータ)、高変動性 (=ハイリスク)」といったポートフォリオ特性も大きくプラスに寄与するも、個別銘柄要因により僅かにマイナスとなったためです。



5月も、中東情勢 (米国とイランの和平交渉) の動向に市場が一喜一憂するも、4月と同様、AI・半導体関連銘柄に買いが集中し「リスクオンの市況環境」が継続したことで、ハイリスクのグロース株に資金が集中、主要3指数がそろって高値を更新する堅調な展開となりました。

AI・半導体関連銘柄への資金集中を過熱と見る向きもありますが、「過去最大のメモリ不足が継続する」との指摘もあり、過去の経験則では測れない状況です。

特に米国市場は、モメンタムファクター (=上昇の勢い) が極めて優位に機能しており、バイアンドホールドが効果的となっていますが、丁寧なリスク管理を行いながら、引き続き成長株をご提供してまいります。

➤ 個別銘柄寄与度

**メジャー（大型ハイクオリティ） 寄与度上位5銘柄**

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	MU	マイクロン・テクノロジー	7.0%	4.481%
	半導体メモリ（DRAM、NANDフラッシュ）の設計・製造。2026年3月17日に発表された2026年度第2四半期決算では、EPSが市場予想を大幅に上回る歴史的な好決算を記録。AIサーバーに不可欠な高帯域幅メモリ（HBM）が2026年末まで完全に売り切れており、米大手証券などが「過去最大のメモリ不足が継続する」と指摘するほどのスーパーサイクルを迎えています。AI主導の利益成長力に対する信頼が評価されています			
2	AAPL	アップル	10.0%	1.468%
	iPhone、Mac、iPadなどのハードウェア販売、およびApp StoreやApple Musicなどのサービス事業。2026年3月中旬から末にかけては、15年ぶりのCEO交代（新体制への移行期）や、半導体・メモリのコスト増に伴う粗利率への影響を懸念する声から株価が一時的に約13%調整（ドローダウン）していました。しかし、独自の「Apple AI」エコシステムへの期待や、粗利率76%を超えるサービス部門の継続的な高成長が下値を支えていました。AIによる新型iPhoneの買い替え特需（スーパーサイクル）も期待されています。			
3	MSFT	マイクロソフト	6.3%	0.661%
	OS、ビジネスソフト（Office）、クラウド（Azure）、およびOpenAIとの提携を通じたAIソリューション。2026年3月は、巨額のAIインフラ投資（設備投資額のガイダンスを上方修正）に対するコスト懸念から一時株価が年初来安値を付けるなど、過熱感の反動による調整局面を迎えていました。しかし、Azureの成長率は38%増と高水準を維持しており、3月末にかけて「3月の安値」から一気に30%近く反発する力強さを見せました。OpenAIのIPO観測もポジティブに働き、AI・クラウド市場のリーディングカンパニーとして評価されています。			
4	LLY	イーライリリー	3.6%	0.642%
	大手製薬会社。糖尿病・肥満症治療薬「マンジャロ（Mounjaro）」および「ゼップバウンド（Zepbound）」が世界中で爆発的なヒットを継続。2026年3月時点では、海外市場での普及ペースが市場予想を遥かに超えて拡大しており、さらに新薬「Foundayo（経口GLP-1薬）」の立ち上げ加速や、2026年通期の強力な利益ガイダンスがサプライズとなりました。肥満症市場の開拓者として高く評価されています。			
5	NVDA	エヌビディア	10.7%	0.626%
	AI向けGPU（画像処理装置）およびデータセンター向けプラットフォームの設計・開発。2026年3月16日～19日に同社最大の年次イベント「GTC2026」を開催。次世代「Blackwell」の出荷進捗に加え、2028年予定の次世代アーキテクチャ「Feynman（ファインマン）GPU」や「Rubin（ルービン）」のロードマップ、低遅延・推論向け新製品のアップデートを披露しました。直近決算でも売上高が前年比85.2%増に達するなど、ハイパースケラーからの需要を独占し続けています。競合を寄せ付けない圧倒的なエコシステム（CUDA）が高く評価されています。			

## ネクストメジャー（中小型ハイグロース） 寄与度上位5銘柄

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	BTSG	ブライтスプリング・ヘルス・サービス	7.8%	1.991%
	<p>高齢者や障害者向けの在宅ケア・コミュニティベースのヘルスケアサービス、および特殊薬局ソリューション。2月下旬に発表された好決算の勢いを維持しており、特に特殊薬局（Pharmacy Solutions）部門の処方箋あたりの粗利益が前年比 50%増と劇的に改善。上場（2024年）以来課題だった債務削減（デレバレッジ）が順調に進み、マージンの拡大と合わせて「利益体質への転換」が明確になって来ています。高齢化社会の進展に伴う在宅ケア需要の長期的な受け皿として評価されています。</p>			
2	RBRK	ルーブリック	4.7%	1.852%
	<p>サイバーセキュリティおよびAI主導のデータ保護（クラウドバックアップ・リカバリ）SaaSの提供。2026年3月12日に発表された2026年度第4四半期決算で、EPSが市場予想を大幅に上回って待望の黒字化を達成。四半期売上高も前年比46.3%増と絶好調でした。ランサムウェア対策やAI運用（Security and AI Operations）における需要が一般企業や政府機関で急増しています。</p>			
3	FLNC	フルエンス・エナジー	3.8%	1.665%
	<p>大規模エネルギー貯蔵システム（蓄電池）および再生可能エネルギー管理用AIソフトウェアの提供。2026年3月時点では、AIデータセンターの急増に伴う電力バックアップ需要を背景に、受注パイプラインが前四半期比で30%増加し、総受注残高（バックログ）が過去最高を更新しました。データセンター向けのポテンシャル（特に2028年の本格納品）は、中長期で期待されています。</p>			
4	ALAB	アステラ・ラボ	1.7%	0.965%
	<p>AIデータセンターおよびクラウドインフラ向けの高速度接続半導体（リタイマ、CXLコントローラなど）の設計・開発。同社の製品（Ariesや Scorpio）は、NVIDIA等の超高速GPUやCPU、メモリ間のデータ転送におけるボトルネックを解消するために不可欠な存在。2026年3月時点では、生成AIサーバーの出荷拡大の波に乗り、売上高が前年比約93.5%増ペースという猛烈な勢いで拡大していました。AIインフラの「接続技術」における絶対的なニッチトップ企業として成長が期待されています。</p>			
5	ROKU	ロク	6.3%	0.712%
	<p>テレビストリーミングOSのプラットフォーム運営、および専用デバイスの販売。2026年3月時点では、前月の好決算を背景に「世界ストリーミング世帯数が1億の大台に到達」というマイルストーンを目前に控え、エンゲージメントが非常に高まっていました。デジタル広告市場の復調や、サードパーティDSP（広告主向けプラットフォーム）との提携、国際展開のマネタイズが順調に進んでいると見られています。かつてのハードウェア依存から脱却し、プラットフォーム（広告・手数料）での収益化と徹底したコスト管理が功を奏したと評価されています。</p>			

## ■ Wealth Growth 戦略の目的・特色

### 1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S & P500 を凌駕するパフォーマンスを目指します

### 2. 戦略の特色

特色 1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色 2：ニューヨーク証券取引所及び NASDAQ に上場する約 5,000 銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

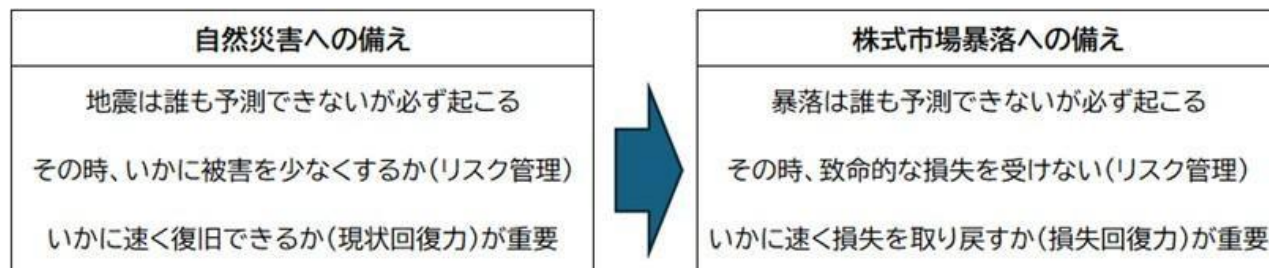
特色 3：銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS 安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（=高配当）」「高サプライズ（=好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（=高い総資本回転率）」「高サプライズ（=好業績）」「高米国株感応度（=ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色 4：組入れ銘柄数は 20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクは S & P500 ±10%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

### 3. 戦略のコンセプト

**・Wealth Growth（ウェルスグロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、**

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



**・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、**

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていけば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

**・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化**

ソルティノ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン/年率換算下方リスク。

### ① 大型株 (Major)

「高収益」×「EPS 安定」×「財務健全」×「高配当」×「好業績」といった、ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

### ② 中小型株 (Next Major)

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、ハイ・グロース特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロース銘柄群に投資します。

## 4. ファクターの説明

Wealth Growth (ウェルスグロース) は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	活動性	総資本回転率、等
4	財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	サプライズ	経常利益修正率、等
8	EPS安定性	1年EPS変化の安定性、等
9	米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10	規模	上場時価総額、等
11	価格水準	株価、等
12	騰落率	60日騰落率、等
13	変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14	流動性	売買代金20日平均、等

## 5. リスク管理

Wealth Growth (ウェルスグロース) は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年6月8日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

## 免責事項

### ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Jトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

#### <業務内容について>

Jトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

#### 【Jトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

#### 【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

### 重要事項

#### <手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要コストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

#### <投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

#### 【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

#### 【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

#### 【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

#### 【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

#### 【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

#### 【投資一任契約の媒介業者】

##### **Jトラストグローバル証券株式会社**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 貸金業者登録番号 東京都知事(1)第31946号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、日本貸金業協会会員 第006278号

#### 【口座管理機関】

##### **株式会社スマートプラス**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会